1.学生の基本特性

第二部は男子学生が８割，短期大学部は女子学生が６割，通信教育部は男子学生が半数強。第一部の学生より，自宅通学者の比率が高く，通学時間も長い傾向。

第二部は法学部，短期大学部は三島キャンパス・船橋キャンパス・湘南キャンパス，通信教育部は昼間スクーリングの各学生が調査対象となっています。

第二部は男子学生が79.6%，短期大学部は女子学生が57.9%，通信教育部は男子学生が52.2%となっています。６年前(平成21年度）からの変化を見ると，短期大学部は変動が大きく，通信教育部は女子学生の減少傾向が見られます。

自宅通学者の比率は，第二部は67.7%，短期大学部は68.0%，通信教育部は80.4%となっており，いずれも第一部より高いという特徴が見られます。通学時間の中央値を第一部の学生と比較すると，第二部で57.4分とより長く，短期大学部（48.2分）は短め，通信教育部の昼間スクーリング受講生（72.0分）は遠方からの通学者が多いようであり長くなっています。平成21年度からの経年変化を見ると，自宅通学者の比率が第二部は増加傾向，短期大学部は減少傾向にあります。

図10-1-1 性別(平成27年度)

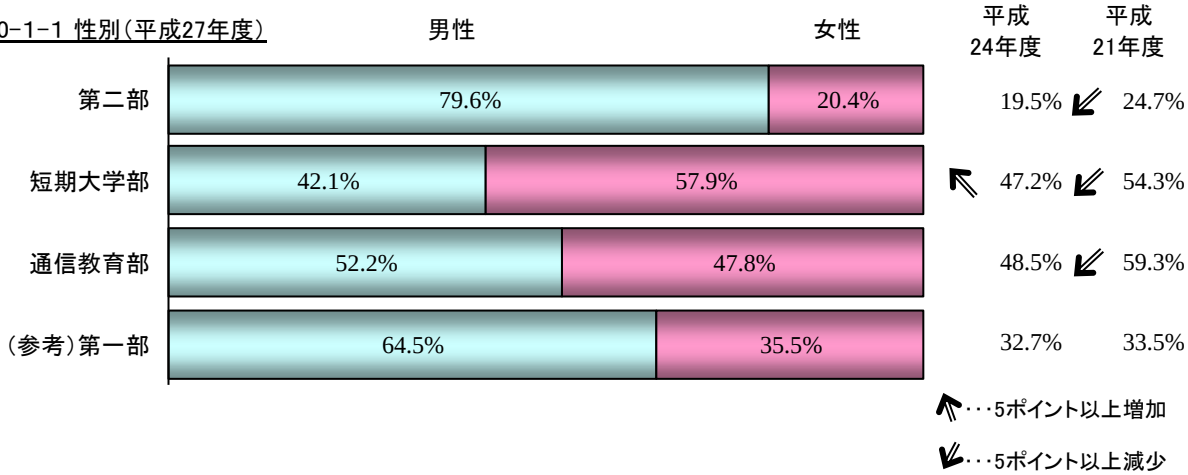
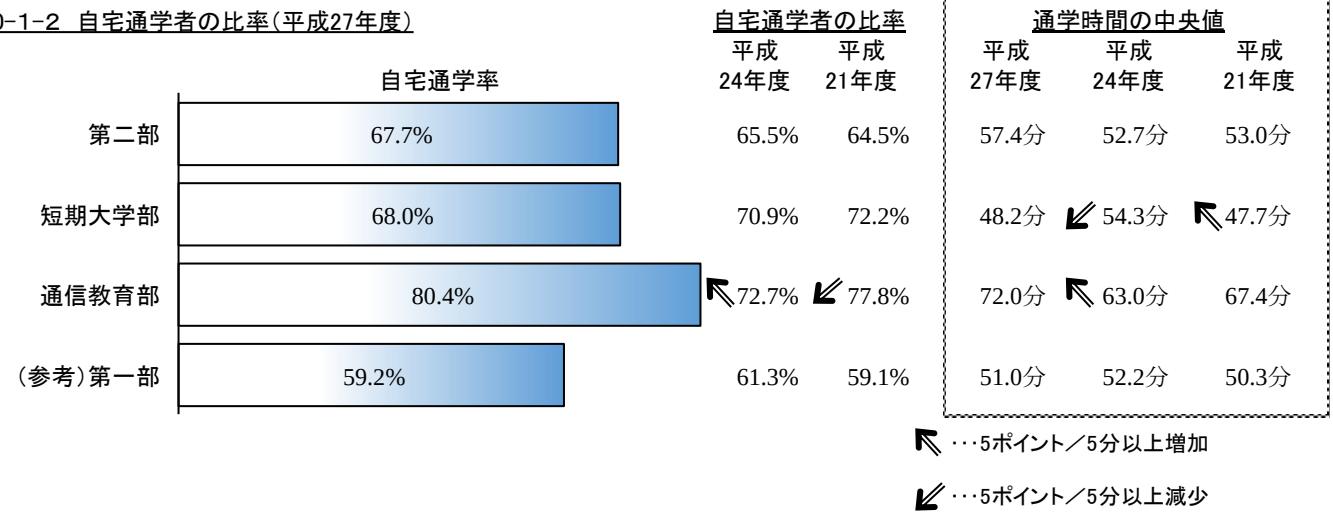


図10-1-2 自宅通学者の比率(平成27年度)



2.勉学態度

『比較的まじめな勉学態度の学生』の比率は，通信教育部と短期大学部で第一部を上回り，第二部はこの３年間で回復の兆し。

勉学態度を見ると，「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」している学生が通信教育部で82.6%，短期大学部で68.0%と第一部の学生と比較して高くなっています。第二部では，「授業や自主的テーマで積極的に勉学」している学生が12.9%と高めです。「授業や自主的テーマで積極的に」と「教科書・ノート中心」を合計した『比較的まじめな勉学態度』の学生は通信教育部で86.9%，短期大学部で76.1%と第一部（67.5%）を上回っています。

『比較的まじめな勉学態度』の学生の比率の経年変化を見ると，第二部では昭和63年度の44.6%から平成21年度の76.6%まで年々増加，平成24年度は58.4%と大幅減少しましたが，平成27年度は66.7%まで回復しています。短期大学部では平成６年までの６年間に21.0ﾎﾟｲﾝﾄ増，平成15年度までの３年間に9.7ﾎﾟｲﾝﾄ増と２度短期間に増加，平成27年度は３年前より3.3ﾎﾟｲﾝﾄ増となっています。通信教育部は平成12年度までの６年間で21.1ﾎﾟｲﾝﾄの大幅増，平成15年度以降は約80%から90%の間を上下しており，ここ３年間は90%弱の水準を維持しています。

図10-2-1 勉学態度（平成27年度）

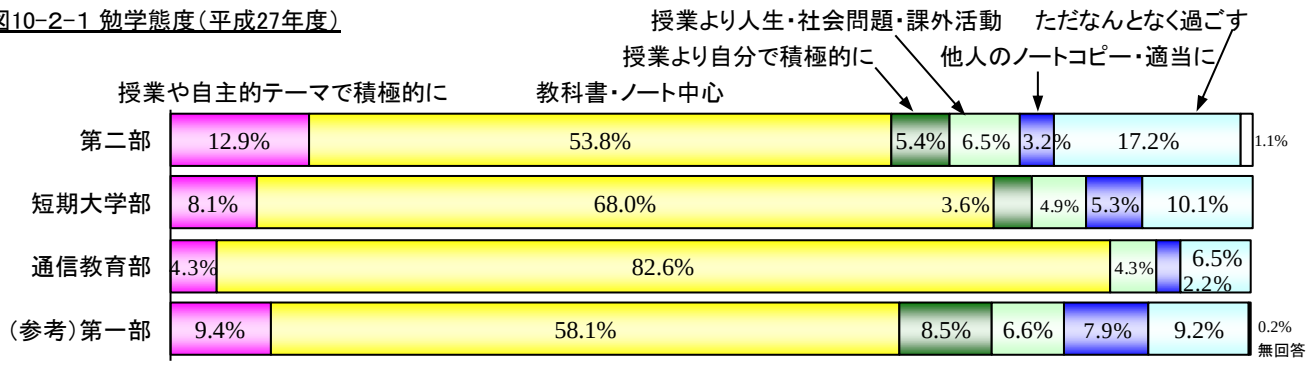
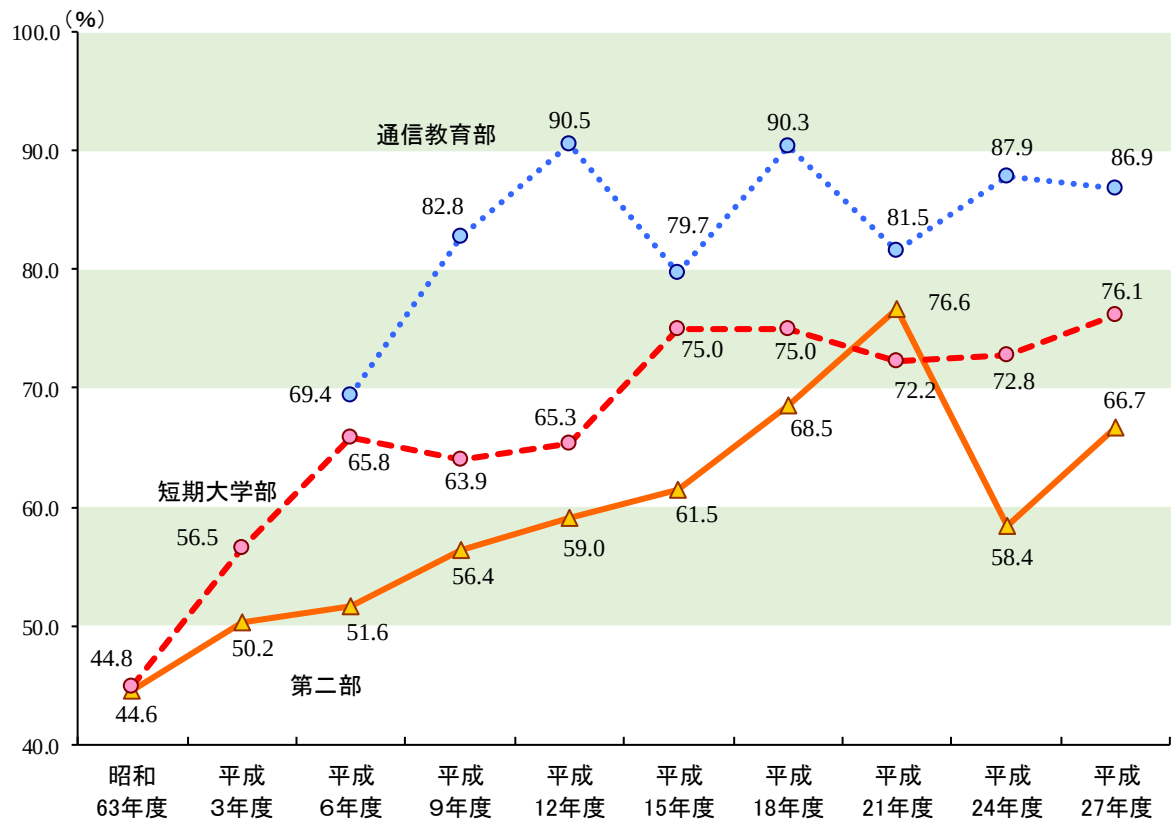


図10-2-2 比較的まじめな勉学態度の経年変化



（注）「授業や自主的テーマで積極的に勉学」と「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」の%の合計

3.授業態度

第二部では専門（必修以外），短期大学部では保健・体育と専門（必修），
通信教育部では専門と総合教育に熱心な学生の比率が高く，全般的に第一部学生より熱心。
専門（必修）について，通信教育部は年々熱心さが高まる傾向，
短期大学部と第二部は，この３年間で熱心さが大きく向上。

授業態度について熱心な学生(「熱心」と「まあまあ熱心」の合計)の比率を見ると，第二部では「専門(必修以外)」が71.4%で最も高く，「保健・体育」が70.7%で続いています。

短期大学部では「保健・体育」(75.4%)と「専門(必修)」(73.4%)が高くなっています。通信教育部では「専門」（必修及び必修以外）と「総合教育」が90%超と非常に高く，全般的に勉学に熱心で，明確な目的意識をもって学んでいることが分かります。

第一部の学生と比較すると，通信教育部と短期大学部は５つの科目とも，第二部では「専門(必修)」以外４科目で，授業態度の熱心な学生の比率が第一部より高くなっています。

専門（必修）科目について経年変化を見ると，通信教育部は平成18年度から年々熱心な学生の比率が増加，短期大学部・第二部もこの３年間で大きく増加しており（それぞれ14.5ﾎﾟｲﾝﾄ・8.0ﾎﾟｲﾝﾄ増)，授業態度の熱心さが向上していることがうかがえます。

図10-3-1 科目別授業態度(「熱心」+「まあ熱心」)(平成27年度)

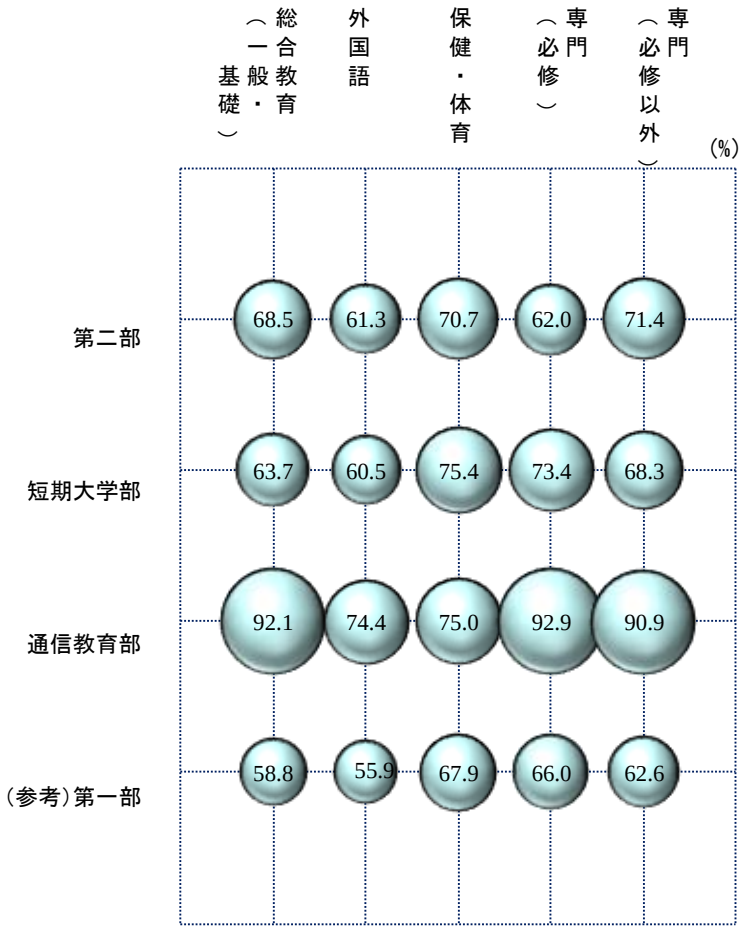
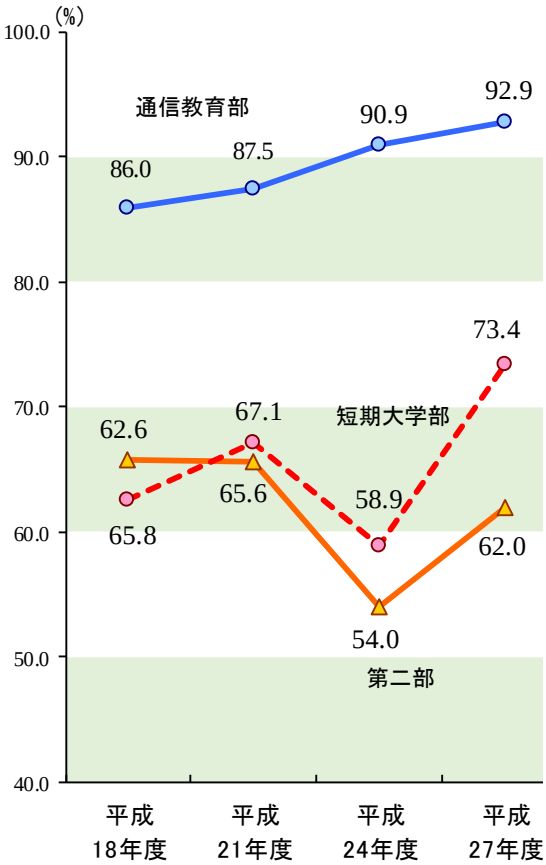


図10-3-2 科目別授業態度(「熱心」+「まあ熱心」)
－専門(必修)の経年変化



（注）「受講していないので答えられない」と無回答を母数から減じて%を算出

4.空き時間の過ごし方

第二部と通信教育部は空き時間に「１人」で過ごす学生が多い。
短期大学部では大勢の友達と過ごす傾向，学食・カフェテリアや図書館利用。

学内で空き時間ができた時に「１人」で過ごす学生の比率を見ると，昼間スクーリングに出席した通信教育部の学生で76.1%，男子学生が８割を占める第二部で58.1%（平成24年比11.8ﾎﾟｲﾝﾄ減）と高い点が目立っています。女子学生の比率が６割と多い短期大学部では，「１人」は25.9%にとどまり友達と「４人以上」が26.3%と高く，第一部と比べても比較的大勢の友達と過ごす学生の比率が高くなっています。

空き時間を過ごす場所を見ると，第二部は「図書館」(43.0%)，比較的大勢で過ごす学生が多い傾向がある短期大学部では「学生食堂・カフェテリア」(43.7%)，通信教育部では「学校周辺のカフェ・ファミレス」(34.8%)がそれぞれトップとなっています。

図10-4-1 空き時間を過ごす人数（平成27年度）

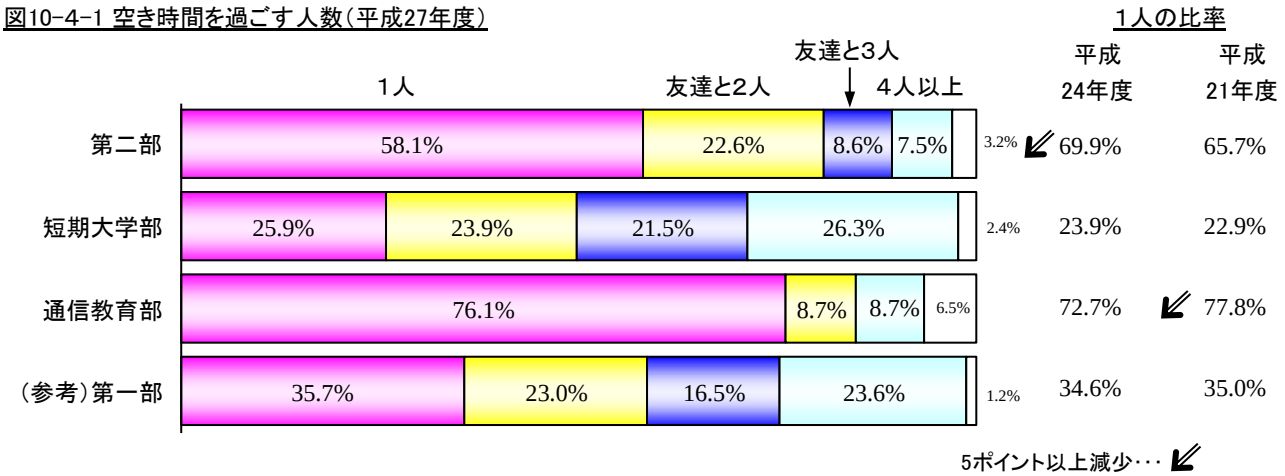
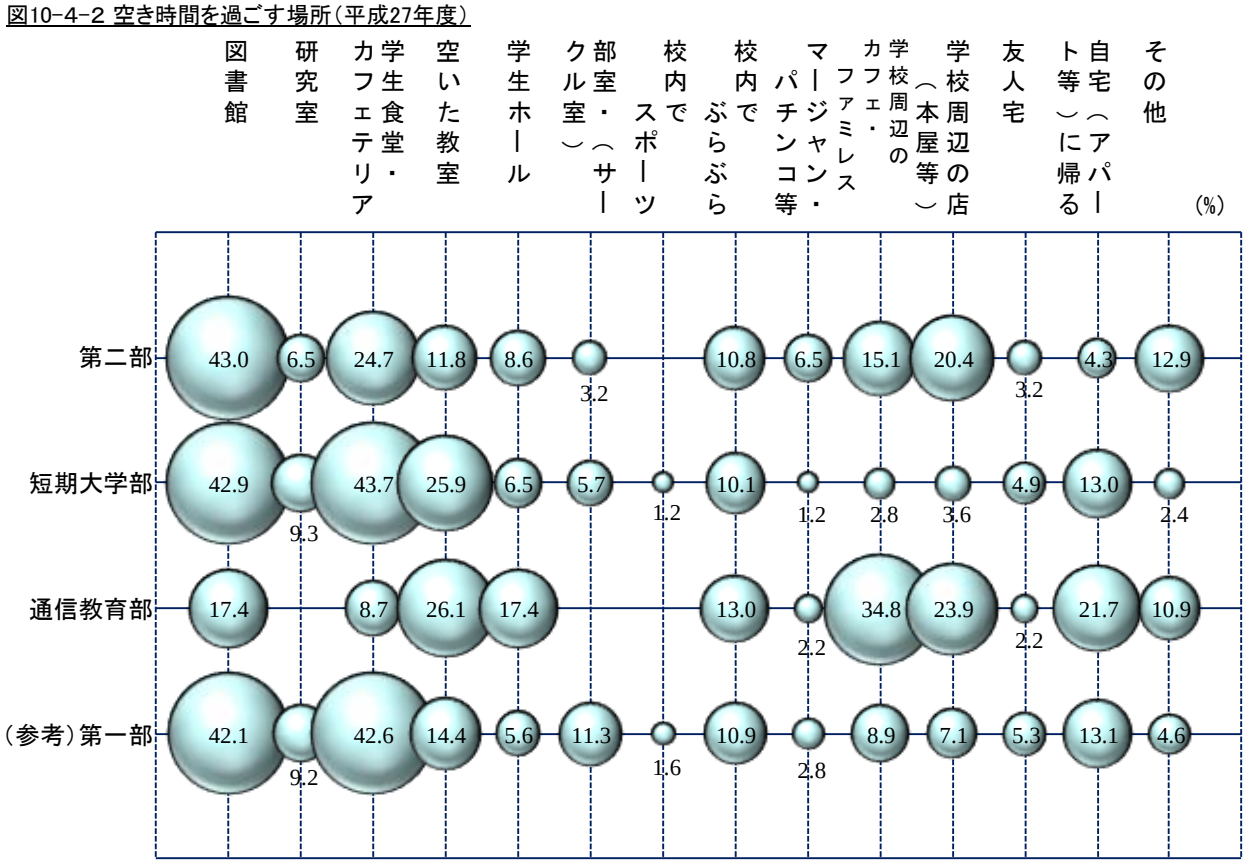


図10-4-2 空き時間を過ごす場所（平成27年度）



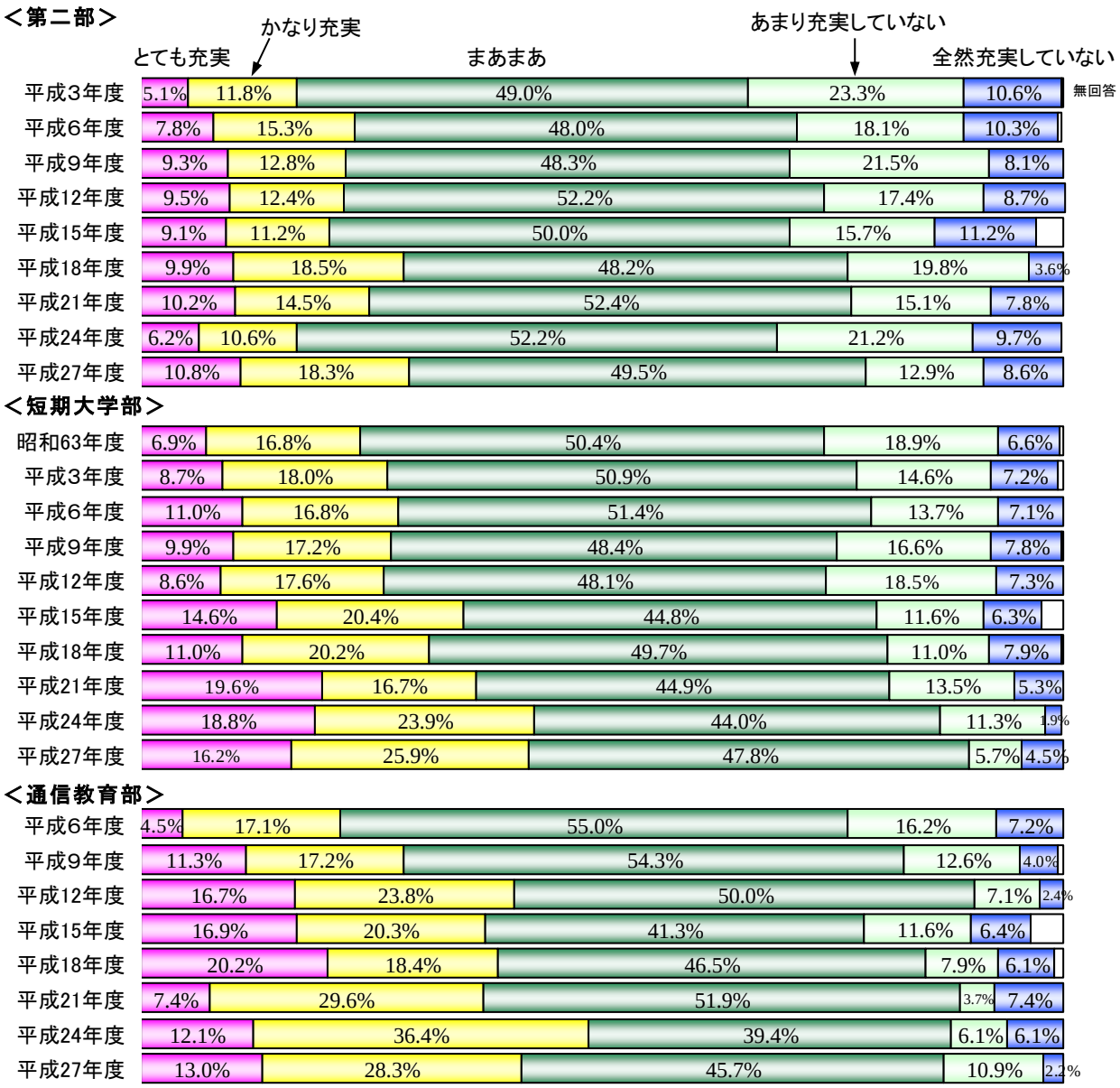
5.学生生活充実感

学生生活が充実している学生の比率は，第二部で増加に転じ過去最高。
３年前に比べ，短期大学部は横這い，通信教育部は減少。

学生生活の充実感についての経年変化を見ると，第二部では９年前の平成18年度から「充実している」学生（「とても充実」と「かなり充実」の合計）の比率が減少傾向にありましたが，平成27年度は29.1％と平成３年度以降で最高となっています。

短期大学部を見ると，「充実している」学生の比率は概ね増加傾向にありましたが，平成27年度は42.1％と３年前から横這いとなっています。通信教育部では平成24年度に48.5％と平成６年度以来最高でしたが，平成27年度は41.3％に減少しています。

図10-5 学生生活の充実感（経年変化）



6.学生生活で重要視すること

学生生活では，「授業・ゼミ」を重要視する学生の比率が高い傾向。
第一部に比べ，「資格取得のための勉強」の重要視傾向がやや強い。
「授業・ゼミ」重要視は，通信教育部・短期大学部で過去最高に。

学生生活で重要視することを見ると，第二部・短期大学部・通信教育部とも「授業・ゼミ」が断トツでトップ（各60.2%，67.6%，76.1%），第一部と比べ「資格取得のための勉強」の比率も高めとなっています。

「授業・ゼミ」を重視する学生の比率について平成18年度から経年変化を見ると，通信教育部と短期大学部では平成21年度から増加傾向(各5.7%増，11.7%増）で平成27年度は平成18年度以降で最高，第二部では３年前より4.4%増加となっています。

図10-6-1 学生生活で重要視すること(平成27年度)

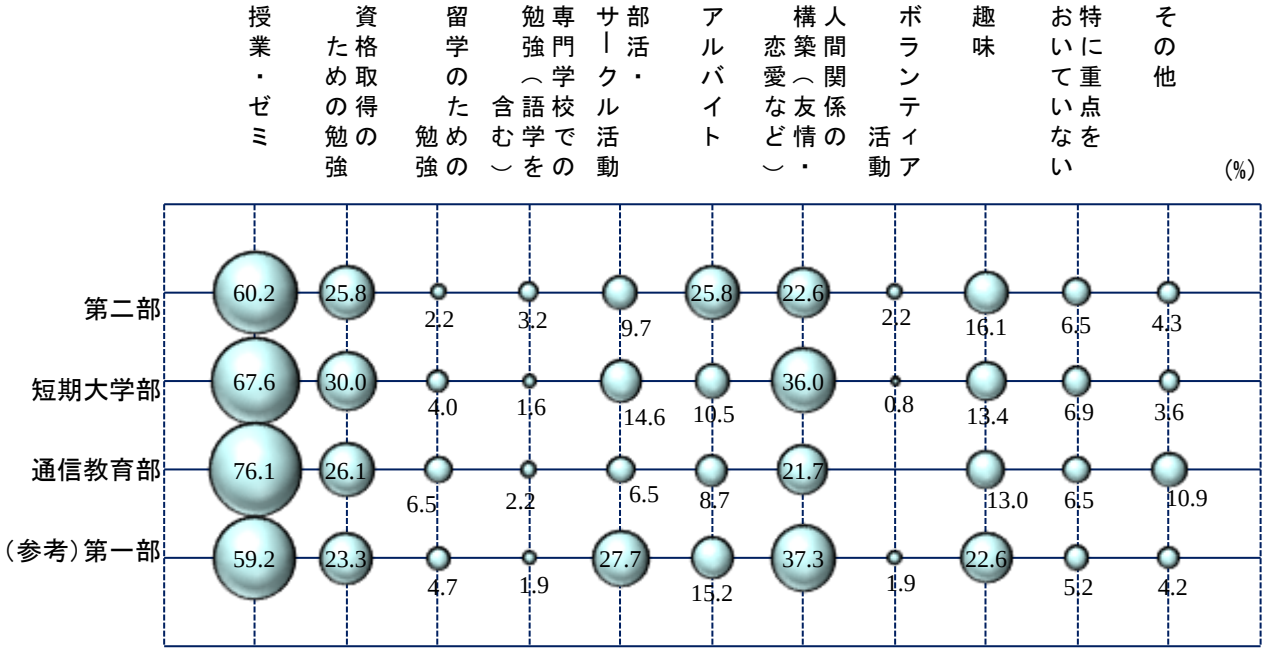
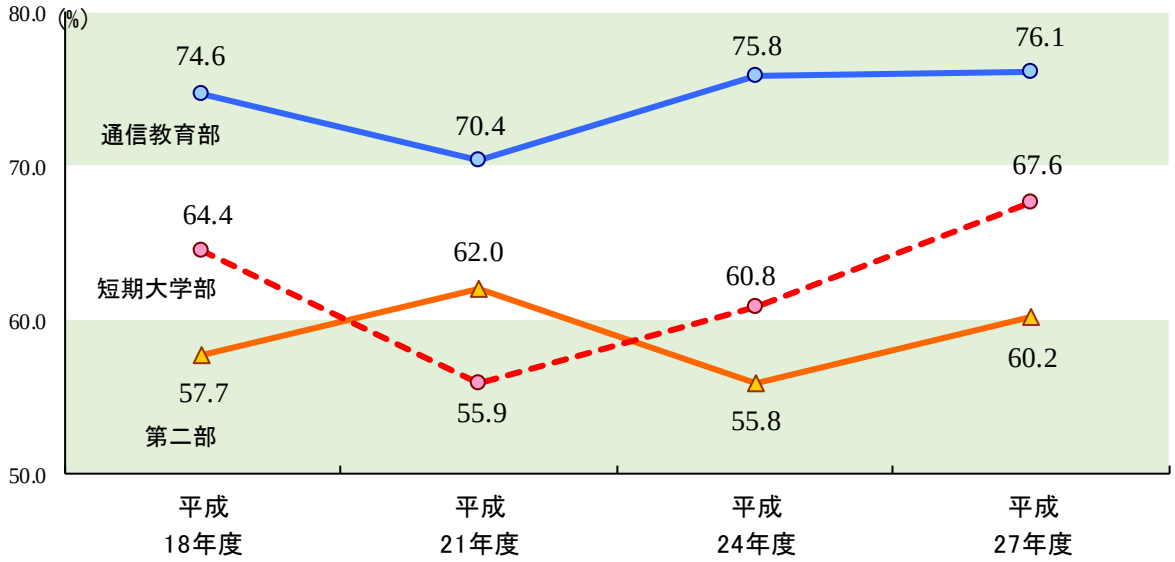


図10-6-2 学生生活で重要視すること－「授業・ゼミ」の経年変化



7.授業及び対応・サービスについての満足層の比率

「専門科目の授業内容」に加え，第二部で「保健・体育科目」，通信教育部で「教員の応対」の満足度が高く，「開講科目の種類」と「授業料に見合う授業内容等」で第一部と差。

授業及び対応・サービスについての満足層（とても満足＋どちらかといえば満足）の比率を見ると，第二部・短期大学部・通信教育部とも「専門科目の授業内容」が80%以上と高くなっています。加えて，第二部では「保健・体育科目の授業内容」「教員の教え方」，短期大学部では「総合教育科目の授業内容」「保健・体育科目の授業内容」「教員の応対」，通信教育部では「教員の応対」「教員の教え方」「総合教育科目の授業内容」が80%を超え,それぞれ満足感の高さが目立っています。

第一部と比較すると，第二部で「開講科目の種類」 が約20ﾎﾟｲﾝﾄ低く，短期大学部で「教員と話のできる機会」が12.6ﾎﾟｲﾝﾄ高く，通信教育部は「開講科目の種類」が20.3ﾎﾟｲﾝﾄ低いものの「授業料に見合う授業内容等」は21.1ﾎﾟｲﾝﾄ高い，といった点が目立っています。

図10-7-1 授業についての満足層の割合（平成27年度）

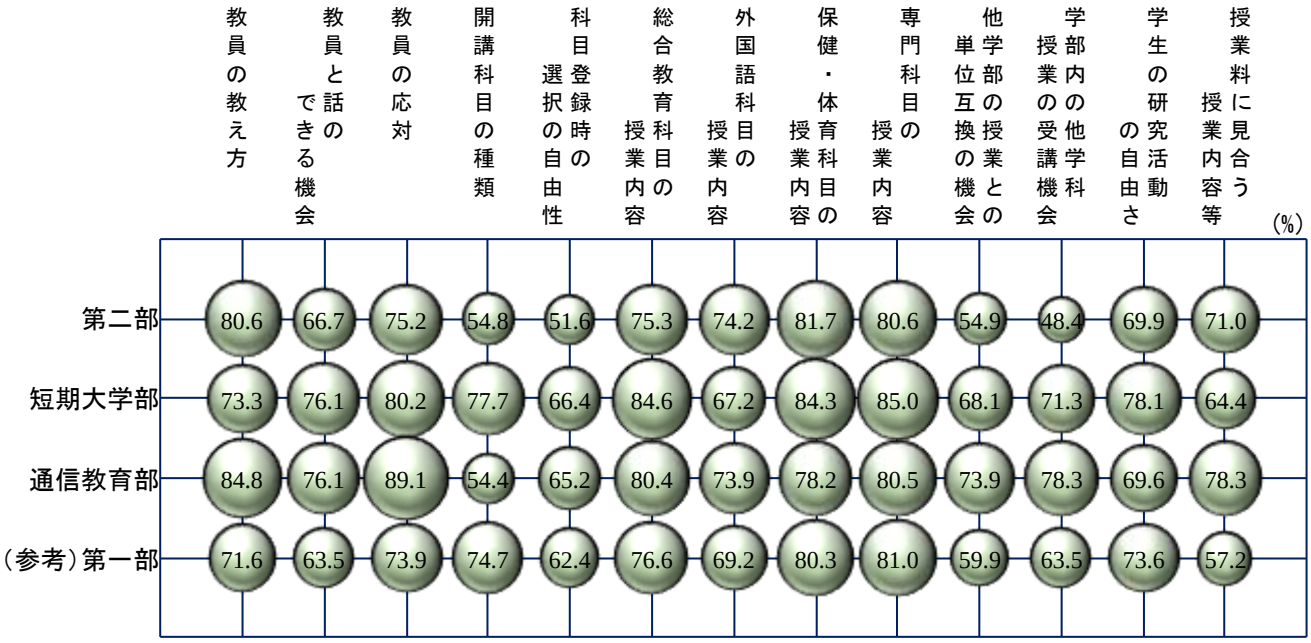
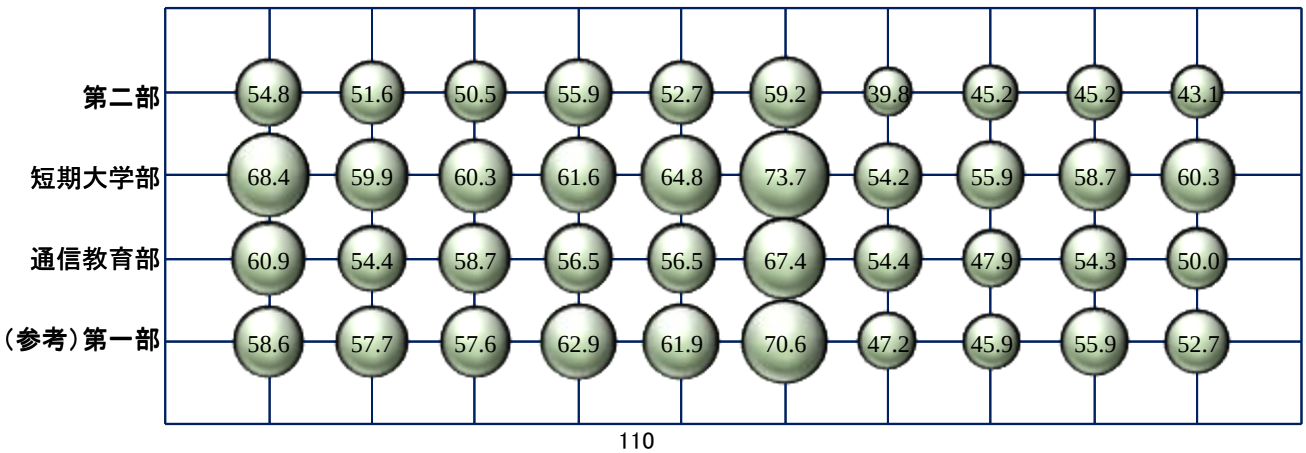


図10-7-2 対応・サービスについての満足層の割合（平成27年度）



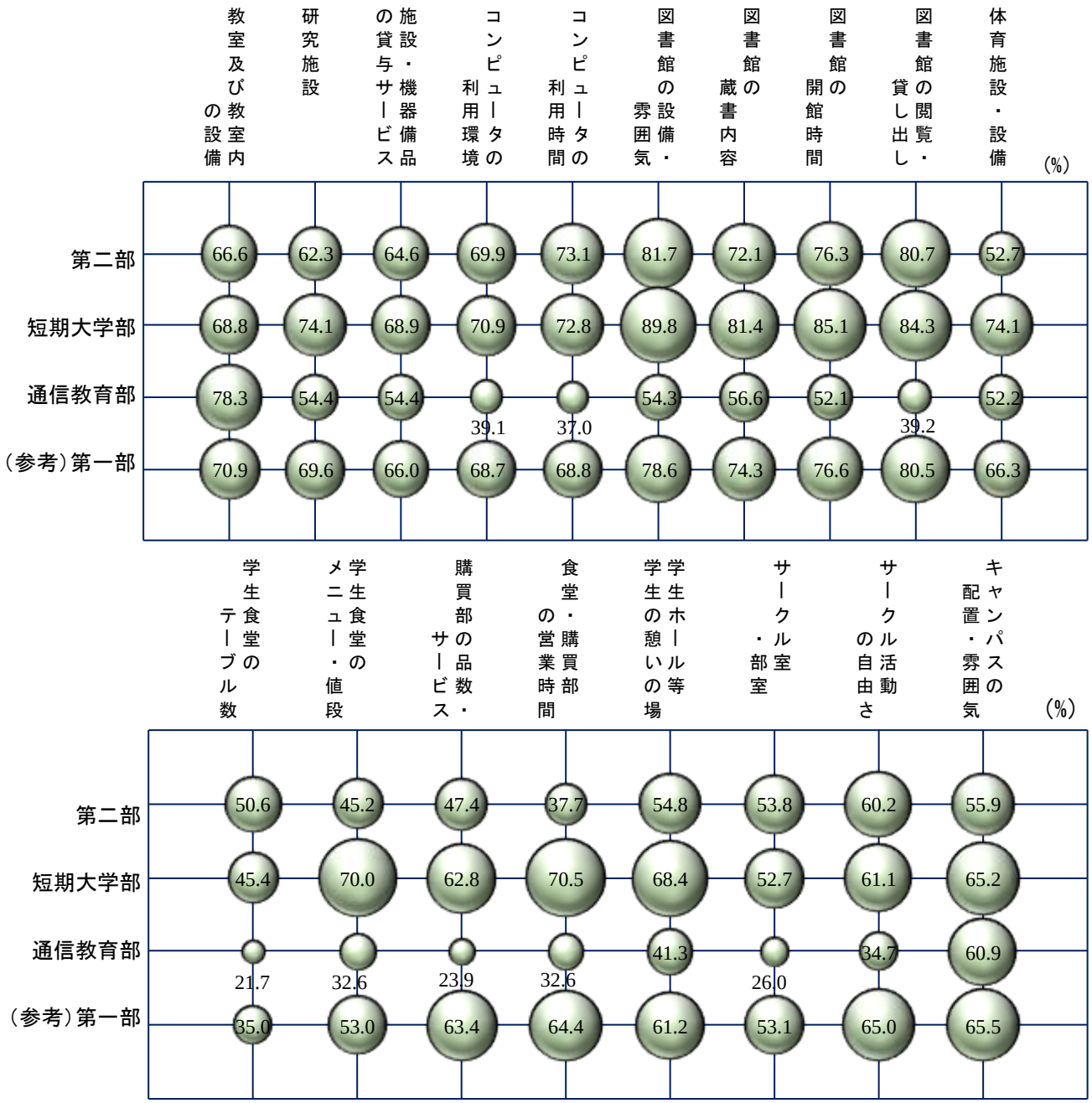
8. 施設についての満足層の比率

図書館の満足感が第二部と短期大学部で高いが，３年前より若干変化。
第一部と比較して，通信教育部で購買部の品数・サービスの満足感が低い点が目立つ。

施設についての満足層（とても満足＋どちらかといえば満足）の比率を見ると，第二部と短期大学部は，「図書館の設備・雰囲気」など図書館に関する満足感の高さが目立っていますが，３年前と比較すると，「図書館の開館時間」は第二部では8.6ﾎﾟｲﾝﾄ減，短期大学部では8.7ﾎﾟｲﾝﾄ増と評価が若干変化しています。

第一部と比較すると，短期大学部では「図書館の設備・雰囲気」（11.2ﾎﾟｲﾝﾄ高い）など図書館に関してや「学生食堂のメニュー・値段」（17.0ﾎﾟｲﾝﾄ高い）に対する満足感が高い点が目立ちます。昼間スクーリングに参加している通信教育部生は「購買部の品数・サービス」「食堂・購買部の営業時間」の満足層が30ﾎﾟｲﾝﾄ以上低くなっています。

図10-8 施設についての満足層の割合（平成27年度）



9.学外の勉学活動・課外活動

短期大学部の学外の勉学の比率は6.1%，第一部の1・2年生より若干低め。
クラブ・サークルやNU祭・学部祭・体育大会等の行事への参加は，
短期大学部でも第一部よりかなり低い。

知識・技術や資格の取得のために学外の各種学校（自動車教習所は除く）又は通信教育などを利用したことがある学生は，第一部(10.4%)に比べ通信教育部では15.2%と高め，第二部では11.8%と若干高め，短期大学部では6.1%と低め（第一部の１・２年生で7.8%）になっています。

クラブ・サークルに所属している比率は，通信教育部で23.9%，第二部で32.2%，短期大学部でも38.9%と，第一部（59.8%）を大きく下回っていますが，通信教育部と短期大学部では平成24年度より7～9ﾎﾟｲﾝﾄ増加しています。

行事への参加は通信教育部で2.2%，第二部で14.0%，短期大学部でも38.9%と第一部に比べ低くなっていますが，短期大学部では平成21年度から増加傾向が見られます。

図10-9-1 学外の勉学の有無（平成27年度）

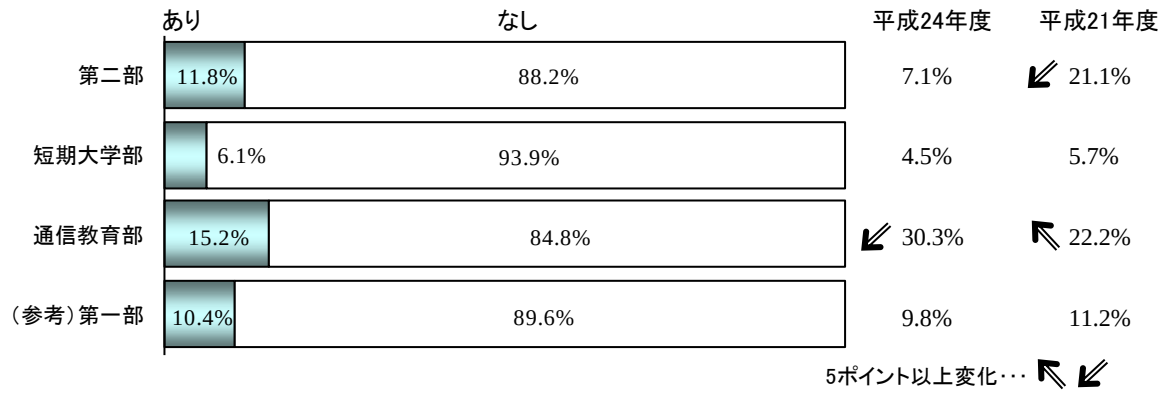


図10-9-2 クラブ・サークルへの参加の有無（平成27年度）

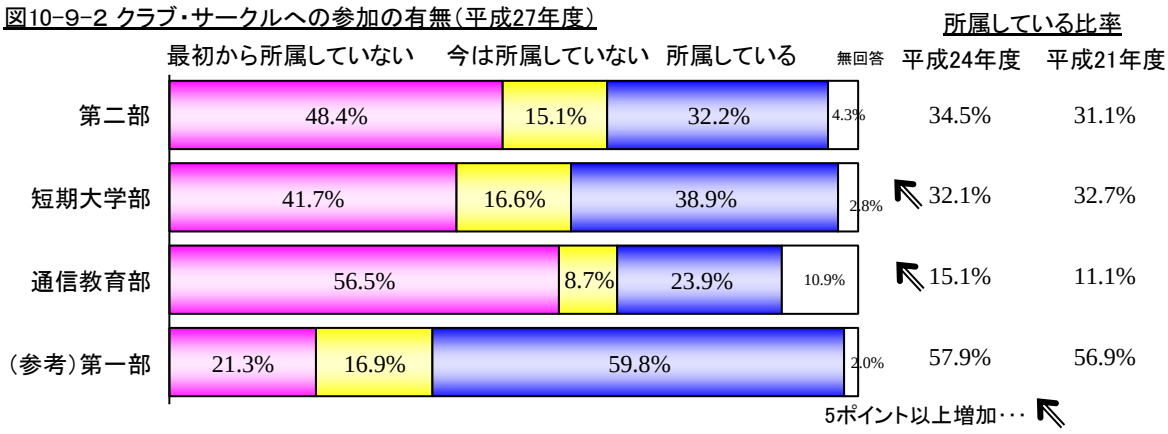
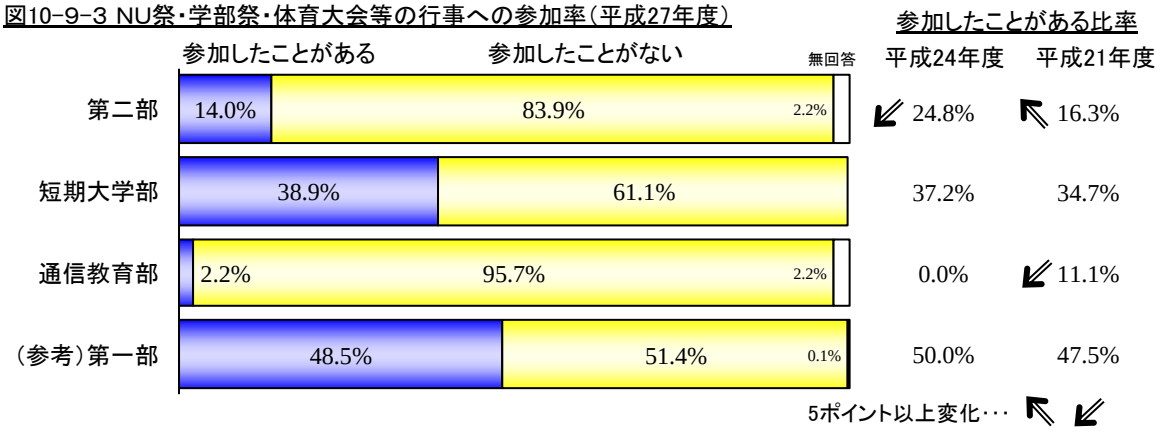


図10-9-3 NU祭・学部祭・体育大会等の行事への参加率（平成27年度）



10.不安・悩み

第二部・短期大学部・通信教育部共に不安・悩みは「勉学」が最大，次いで「進路」。
食欲不振・不眠・イライラは，第一部の学生より高い傾向。

在学中に経験した不安・悩み・問題(トラブル)を見ると，第二部・短期大学部・通信教育部ともに「勉学上のこと」が最も高く（各63.4%，69.6%，73.9%），「就職や将来の進路」(各40.9%，56.7%，39.1%)が続いており，第一部と同様の傾向となっています。また，第二部・通信教育部では「家計・学費・借金などの経済問題」，短期大学部では「友人との関係」が３番目に高くなっています。

日頃の生活で気になることを見ると，「食欲がなくなることが多い」「眠れないことが多い」「イライラが多い」は第二部・短期大学部・通信教育部とも，第一部と比較して1.3～8.2ﾎﾟｲﾝﾄ高い傾向があります。短期大学部では「不安感」(34.8%)と「イライラ」(32.0%)が強いようです。

図10-10-1 不安・悩み・問題(トラブル)の種類(平成27年度)

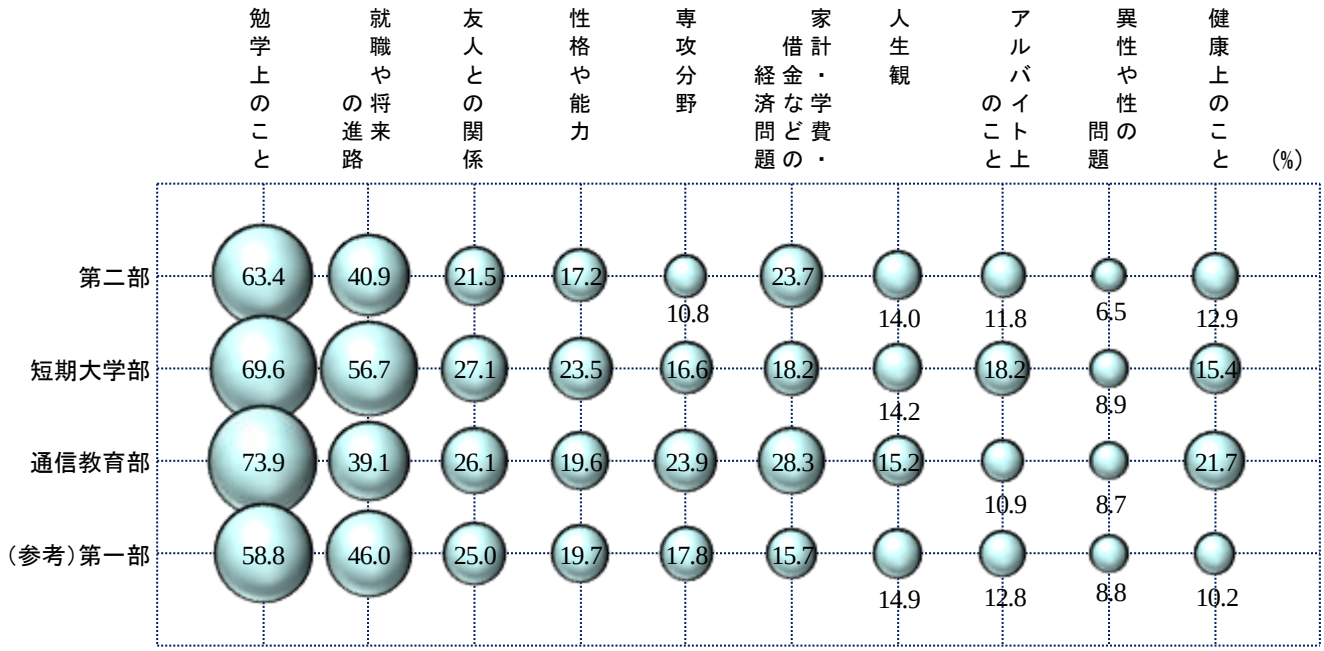


図10-10-2 日頃の生活で気になること(平成27年度)

11.アルバイト

アルバイトを「現在している」学生は，第二部で７割，短期大学部・通信教育部で約６割。
３年前より増加傾向。通信教育部では「定職」が２割半。

アルバイト（定職を含む）の経験を見ると，「現在している」学生は，第二部で71.0%，短期大学部で57.9%，通信教育部で58.7%となっています。第二部・短期大学部・通信教育部とも，３年前の平成24年度より7ﾎﾟｲﾝﾄ以上増加しています。第一部と比較すると，第二部は8.6ﾎﾟｲﾝﾄ高く，短期大学部と通信教育部は若干低めとなっています。

現在アルバイト(定職を含む)をしている学生のうち，第二部と短期大学部では「長期アルバイト（６か月以上）」が８割を占めているのに対し，通信教育部では「長期」が63.0%，「定職」が25.9%と「定職」の比率が高くなっています。

図10-11-1 アルバイト経験の有無（平成27年度）

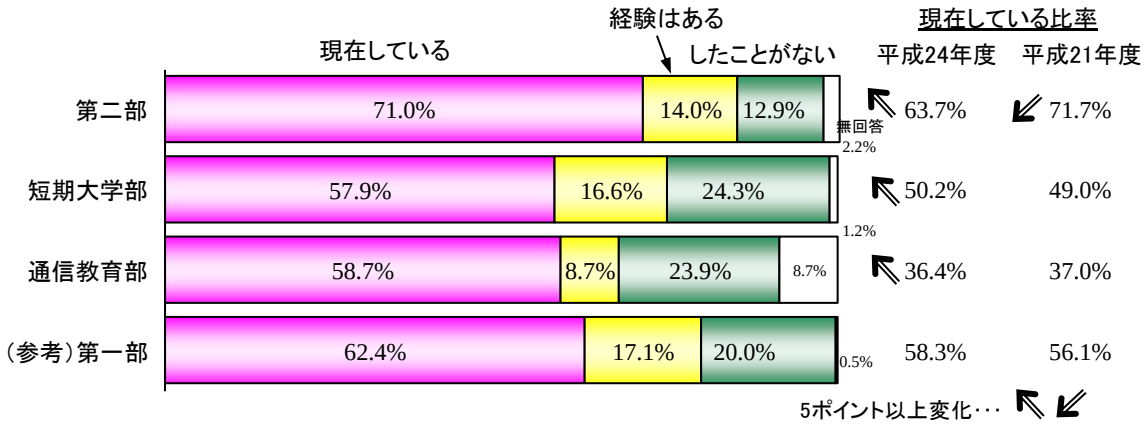
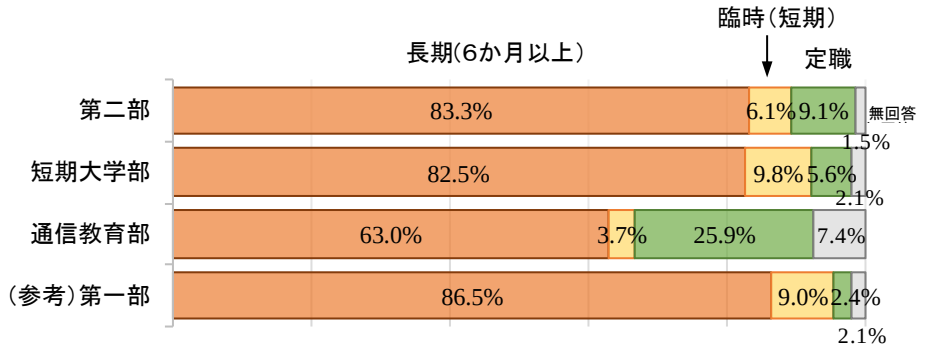


図10-11-2 アルバイトの状況（平成27年度）



12.奨学金

保護者からの支出のみで就学可能な学生の比率は，短期大学部で半数強，
第二部・通信教育部で半数を切る。奨学金が必要な学生の比率は第一部並み。

保護者等からの支出のみで「修学可能」な学生の比率は，短期大学部で半数強（55.9%），第二部で半数（49.5%），通信教育部で半数弱（45.7%）となっており，いずれも第一部（62.8%）を下回っています。平成24年度と比較すると，第二部では5.4ﾎﾟｲﾝﾄ減少， 短期大学部と通信教育部では横這いとなっています。

「現在の状態は，奨学金を申請する必要がない」と回答した学生は，第二部で48.4%，短期大学部で44.5%，通信教育学部で45.7%と，いずれも第一部（45.4%）とほぼ同程度の比率となっています。また，現在奨学金の貸与を利用している学生が，短期大学部で22.7%，第二部で9.7%，通信教育部で8.7%，返済義務のない給付の奨学金を受給希望する学生は各14.6%，16.1%，17.4%と第一部（10.9%）より高めとなっています。

図10-12-1 保護者等からの支出のみで修学可能か（平成27年度）

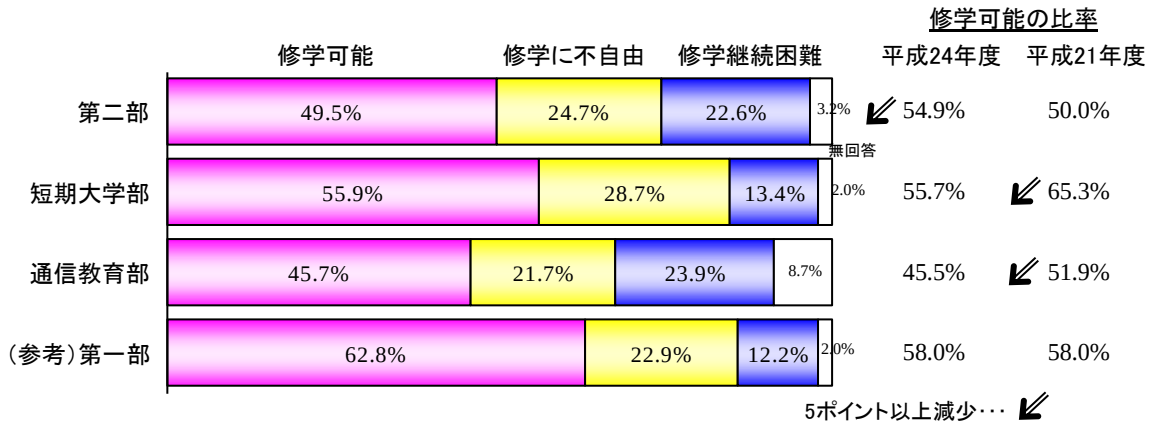
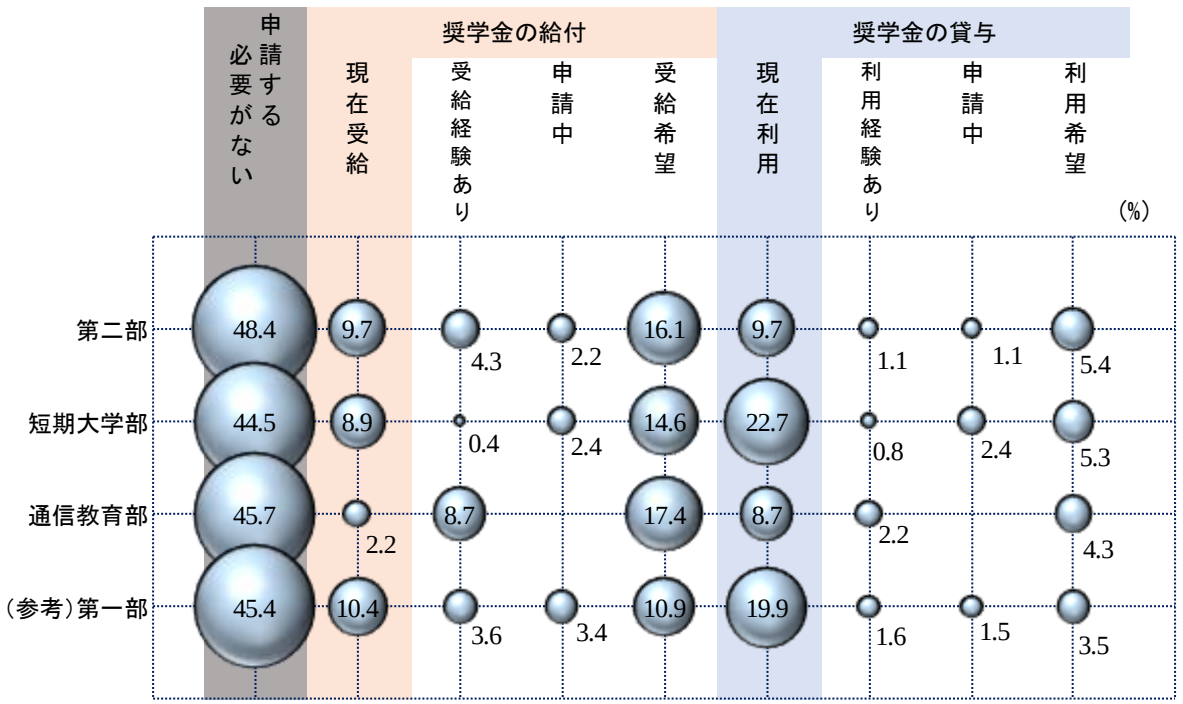


図10-12-2 奨学金の利用の有無と利用意向（平成27年度）



13. 入学から現在までの意識・行動ーその1

入学決心理由について，通信教育部と第二部は「授業料が安いから」がトップ。
第二部・短期大学部・通信教育部とも，入学に満足し入学時の勉学意欲が高い学生が大半。

日本大学に入学する決心をした主な理由を第一部での高い順(出現率約5%以上）に並べたものが上段の図です。第二部と通信教育部では「授業料が安いから」がトップ（各36.6%，47.8%），短期大学部では「希望した大学に入れなかった」と「資格がとれるから」が上位となっています（各25.9%，23.1%）。

入学直後の意識・行動を第一部での高い順に並べたものが下段の図です。第二部・短期大学部・通信教育部とも，「今の学部に入って良かった」(各79.6%，74.1%，82.6%)，「日大に入って良かった」(各77.4%，81.4%，91.3%)が最も高くなっています。さらに，「授業に出て良い成績をとりたい」と高い勉学意欲の学生の比率も第一部より2～10.4ﾎﾟｲﾝﾄ高くなっています。短期大学部では「他の学部や学科に入りたかった」が61.9%と第一部（28.3%）よりかなり高い点が目立っています。

図10-13-1 日本大学に入学決心理由(平成27年度)

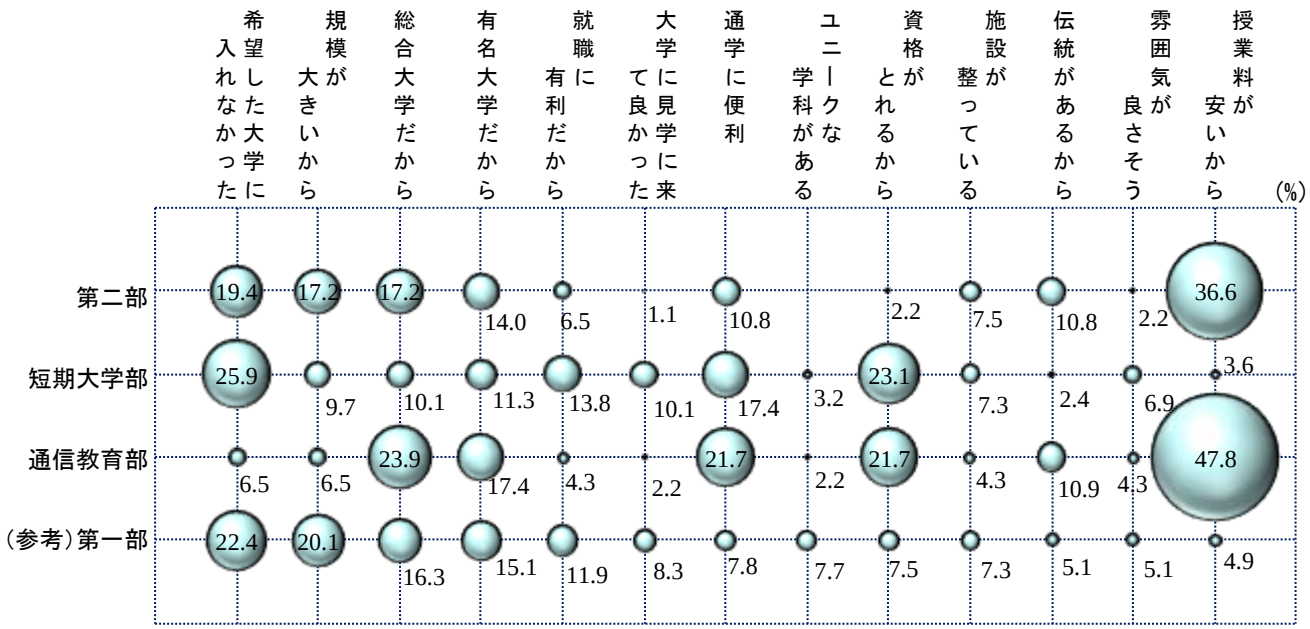
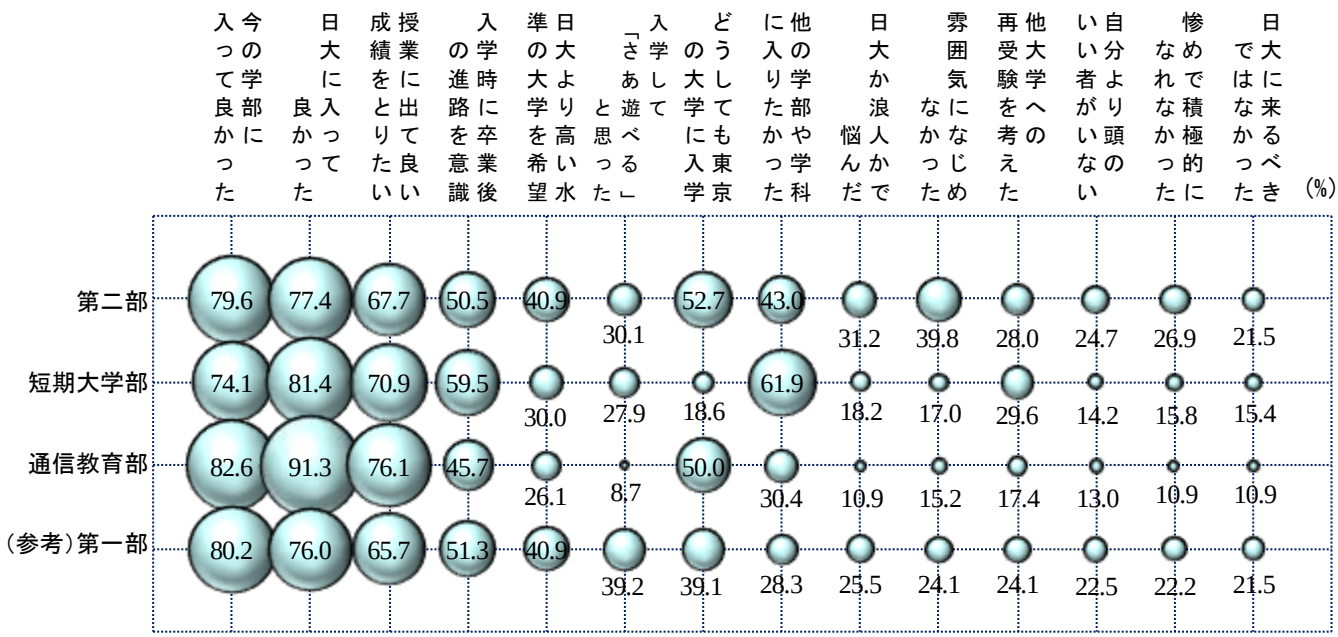


図10-13-2 入学直後の意識・行動(平成27年度)

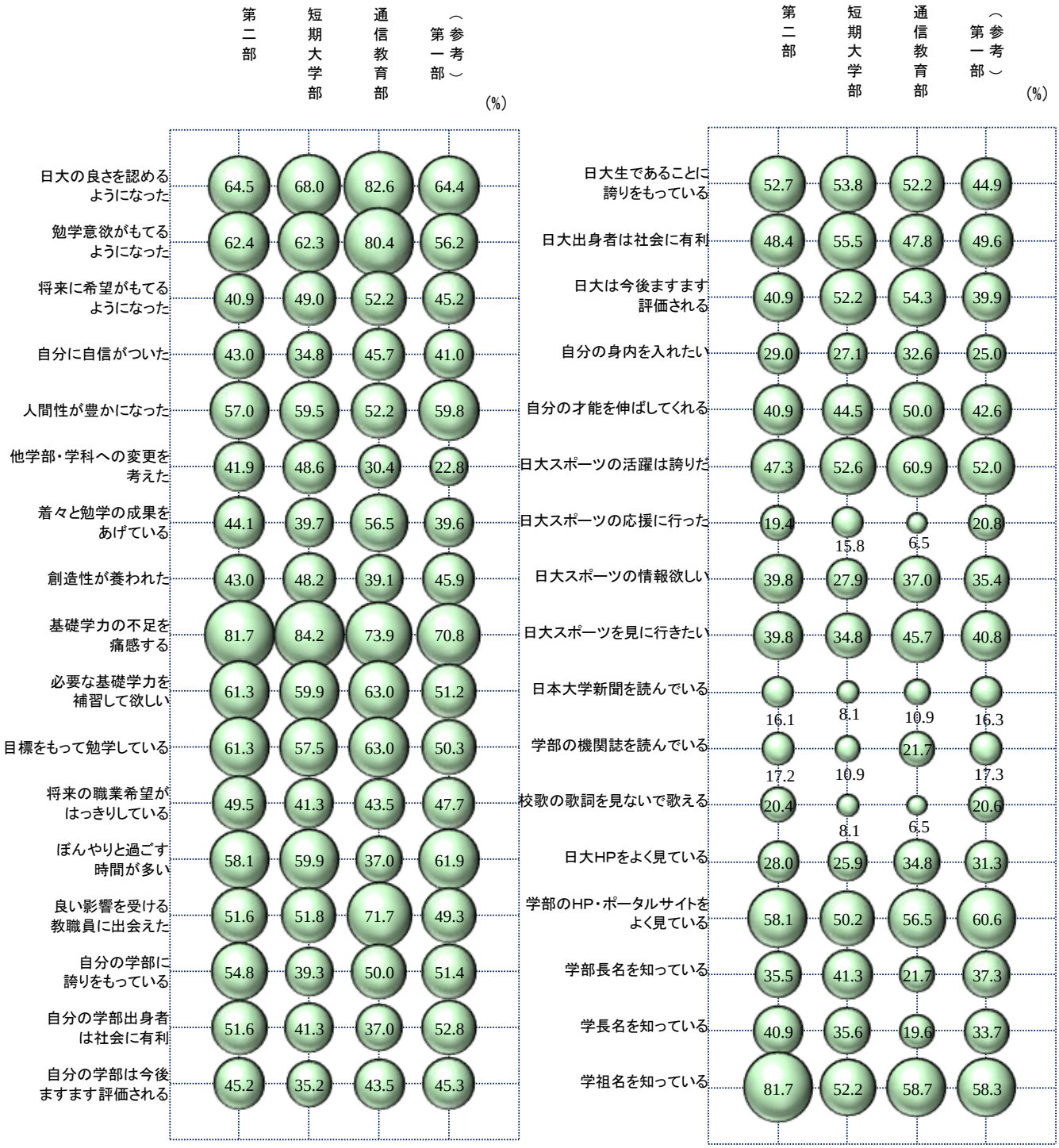


13.入学から現在までの意識・行動－その2

現在の意識・行動について第二部と短期大学部で「基礎学力の不足を痛感する」学生が８割。
通信教育部では日大や教職員に対する評価や勉学意欲が高く，基礎学力補習希望が急増。

学生の現在の意識・行動について見ると，通信教育部では「日大の良さを認めるようになった」が82.6%，「勉学意欲がもてるようになった」が80.4%。第二部と短期大学部では「基礎学力の不足を痛感する」が各81.7%と84.2%，さらに第二部で「学祖名を知っている」が81.7%と高くなっています。第一部と比較すると，第二部で「学祖名を知っている」，短期大学部で「他学部・学科への変更を考えた」(48.6%)，通信教育部で「良い影響を受ける教職員に出会えた」(71.7%)がそれぞれ23.4ﾎﾟｲﾝﾄ，25.8ﾎﾟｲﾝﾄ，22.4ﾎﾟｲﾝﾄ上回っています。平成24年度と比較すると，通信教育部で「必要な基礎学力を補習してほしい」が23.6ﾎﾟｲﾝﾄ増と目立っています。

図10-13-3 現在の意識・行動(平成27年度)



14.身についている力

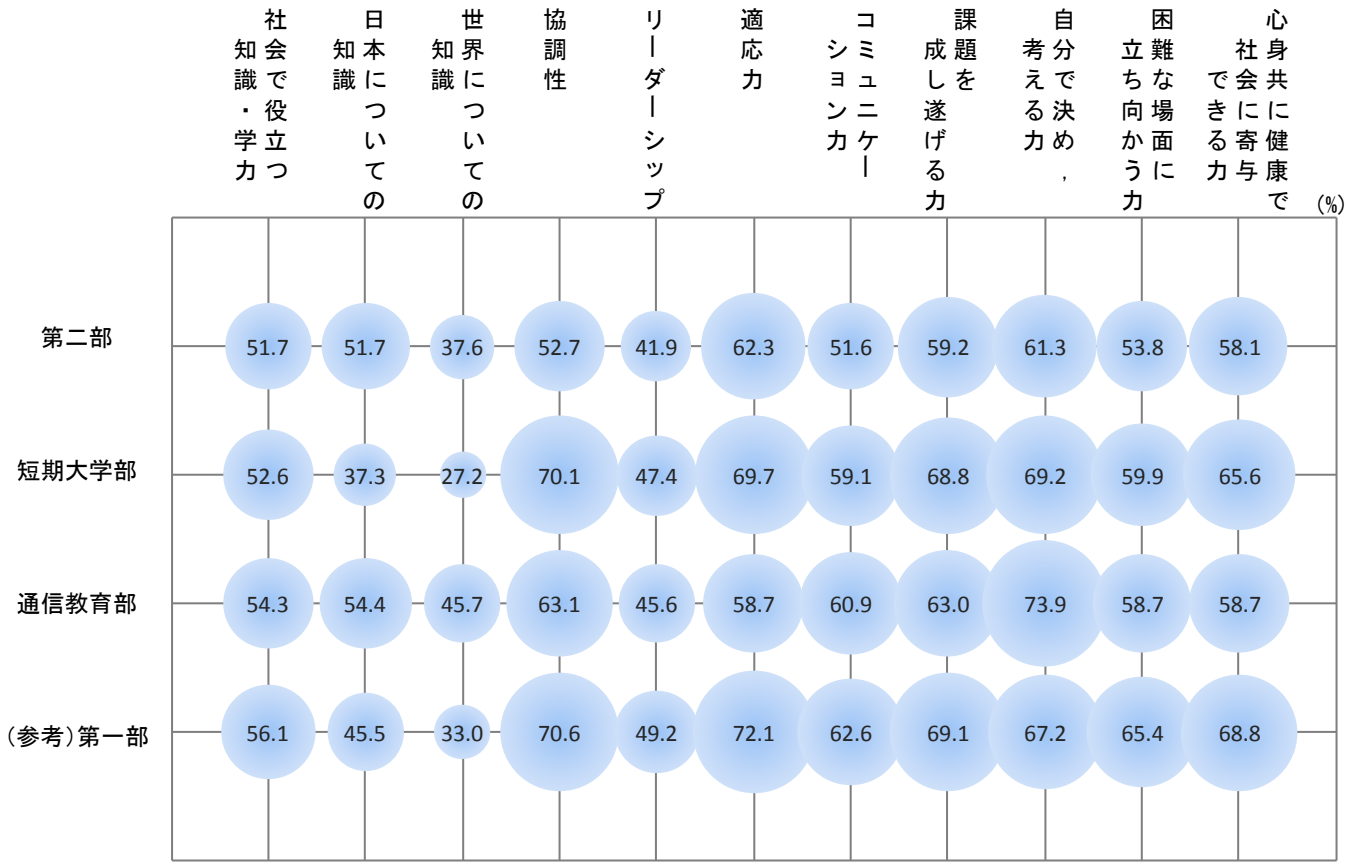
短期大学部は「協調性」「適応力」，通信教育部は「自分で決め，考える力」が強い傾向。
第二部は幅広い知識が強み？　身についている力の強い分野に差異。

平成27年度の調査追加された身についている力に関する設問について，「十分ある」あるいは「どちらかといえばある」と回答した学生の比率を下図に示しました。

短期大学部では「協調性」が70.1%，「適応力」が69.7%，「自分で決め，考える力」が69.2%，通信教育部では「自分で決め，考える力」が73.9%と高くなっています。

第一部の学生と比較すると，第二部は「日本についての知識」が6.2ﾎﾟｲﾝﾄ，「世界についての知識」が4.6ﾎﾟｲﾝﾄ上回っていますが，「協調性」で17.9ﾎﾟｲﾝﾄ，「困難な場面に立ち向かう力」と「心身共に健康で社会に寄与できる力」がともに11.6ﾎﾟｲﾝﾄ，「コミュニケーション力」が11.0ﾎﾟｲﾝﾄ下回っています。短期大学部は「自分で決め，考える力」が2.0ﾎﾟｲﾝﾄ上回っていますが，他の全ての項目で0.3～8.2ﾎﾟｲﾝﾄ下回っています。通信教育部は「世界についての知識」が12.7ﾎﾟｲﾝﾄ，「日本についての知識」が8.9ﾎﾟｲﾝﾄ，「自分で決め，考える力」が6.7ﾎﾟｲﾝﾄ上回っていますが，「適応力」で13.4ﾎﾟｲﾝﾄ，「心身共に健康で社会に寄与できる力」が10.1ﾎﾟｲﾝﾄ下回っています。全般的に第一部の学生の方が数値が高い傾向が見られますが，それぞれの強みに差異があると解釈できるかもしれません。

図10-14　身についている力（平成27年度）－「ある」と答えた学生の割合

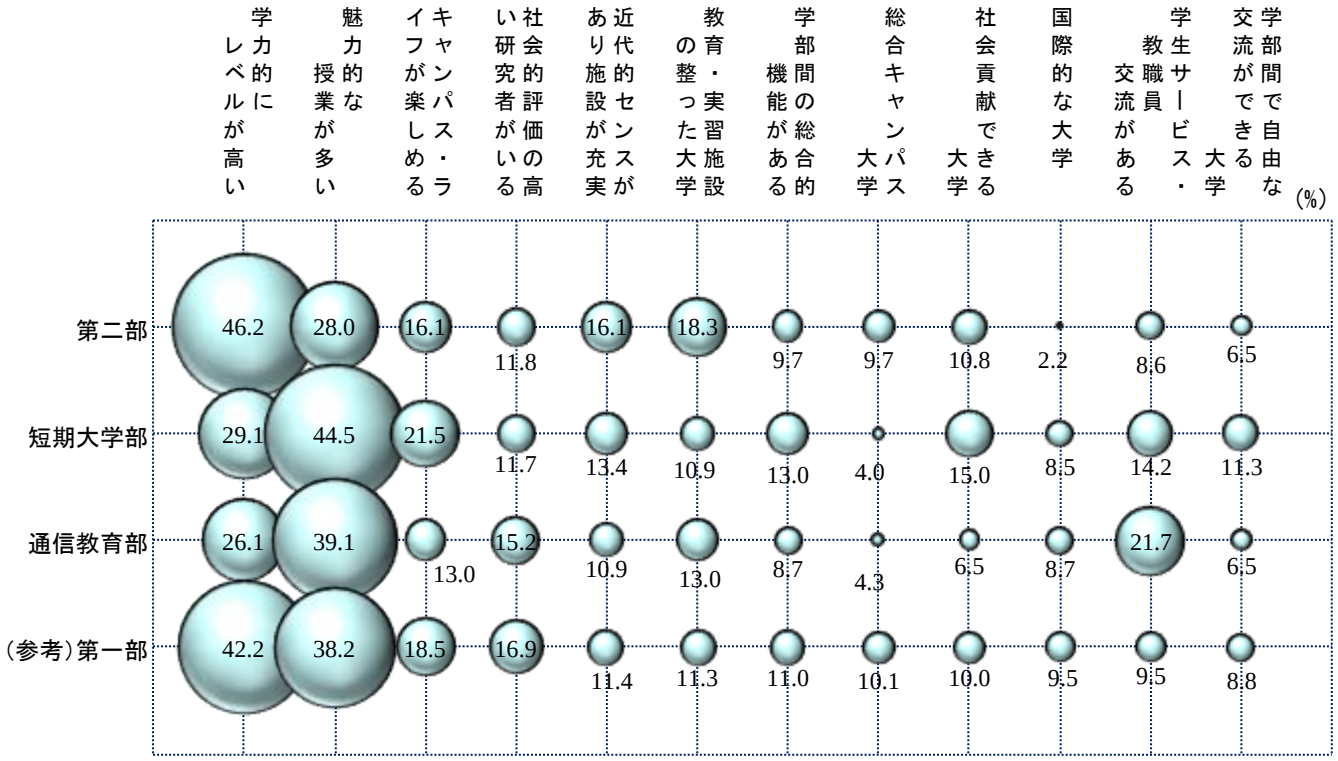


15.望まれる大学づくり

魅力ある誇れる大学にするために，第二部は「学力的レベルが高い」こと，短期大学部と通信教育部は「魅力的な授業が多い」ことが最重要，との提言。

日大を魅力ある誇れる大学にするために特に重要な政策についての学生の回答を見ると，第二部は「学力的にレベルが高い」（46.2%），短期大学部・通信教育部は「魅力的な授業が多い」（各44.5%，39.1%）がそれぞれトップとなっています。この両項目が上位である傾向は，第一部及び３年前の調査結果と同様です。さらに，短期大学部では「キャンパス・ライフが楽しめる」(21.5%)，通信教育部では「学生へのサービスが良く教職員と交流できる親しみのある大学」(21.7%)が相対的に高くなっています。

図10-15 望まれる大学づくり(平成27年度)



16.卒業後の進路

第二部と短期大学部では「自分の能力」が最も不安で「職業適性」情報を望む。
通信教育部は「就職」が最も不安でＩＴ技術情報を望む。３年前より変化。

学生の将来についての不安を見ると，第二部と短期大学部では「自分の能力でやれるか」（各38.7%，42.1%），通信教育部では「就職できるか」（30.4%）がトップとなっています。

進路に関する知りたい情報・知識について見ると，第二部と短期大学部では「自分の職業適性」（各47.3%，45.3%），通信教育部では「社会に通用するコンピュータの知識・技術レベル」（30.4%）がトップとなっています。３年前と比較すると，社会情勢を反映してか，第二部と短期大学部では「就職ができるか」という不安の減少が目立っています（各11.7ﾎﾟｲﾝﾄ減，6.0ﾎﾟｲﾝﾄ減）。同時に，「職業適性」についての情報を求める傾向が強まっているようです。

図10-16-1 将来についての不安（平成27年度）

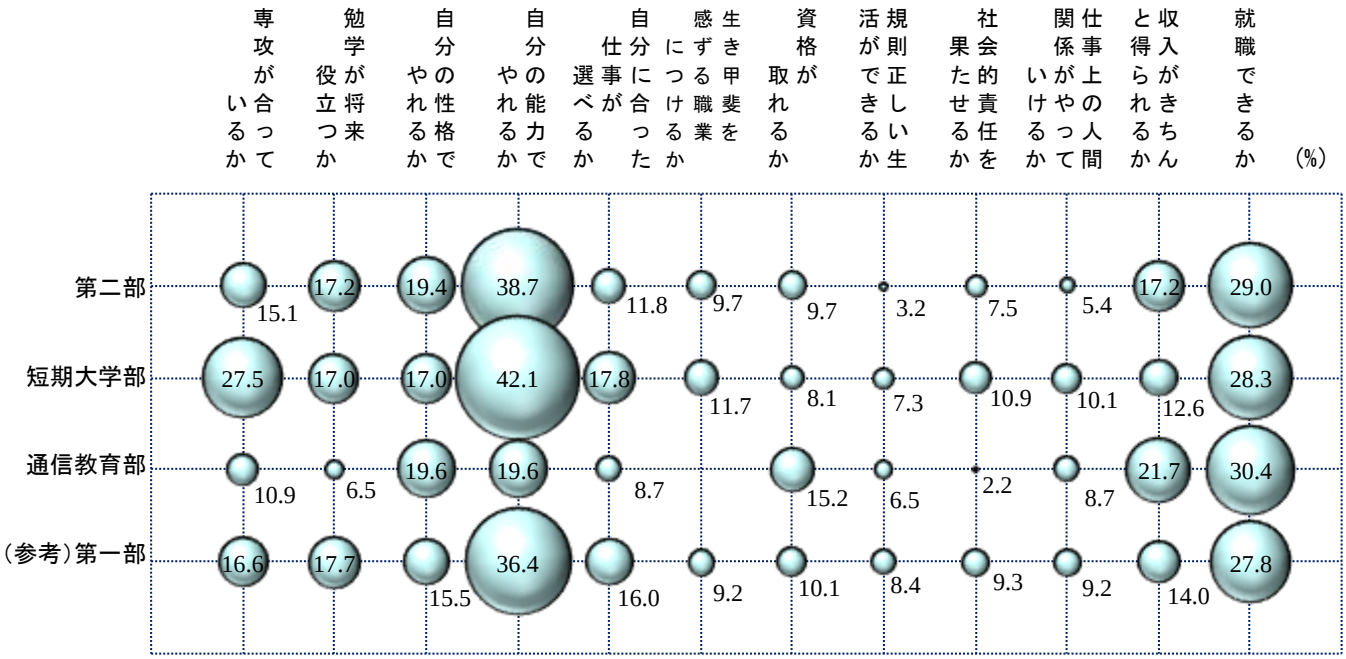
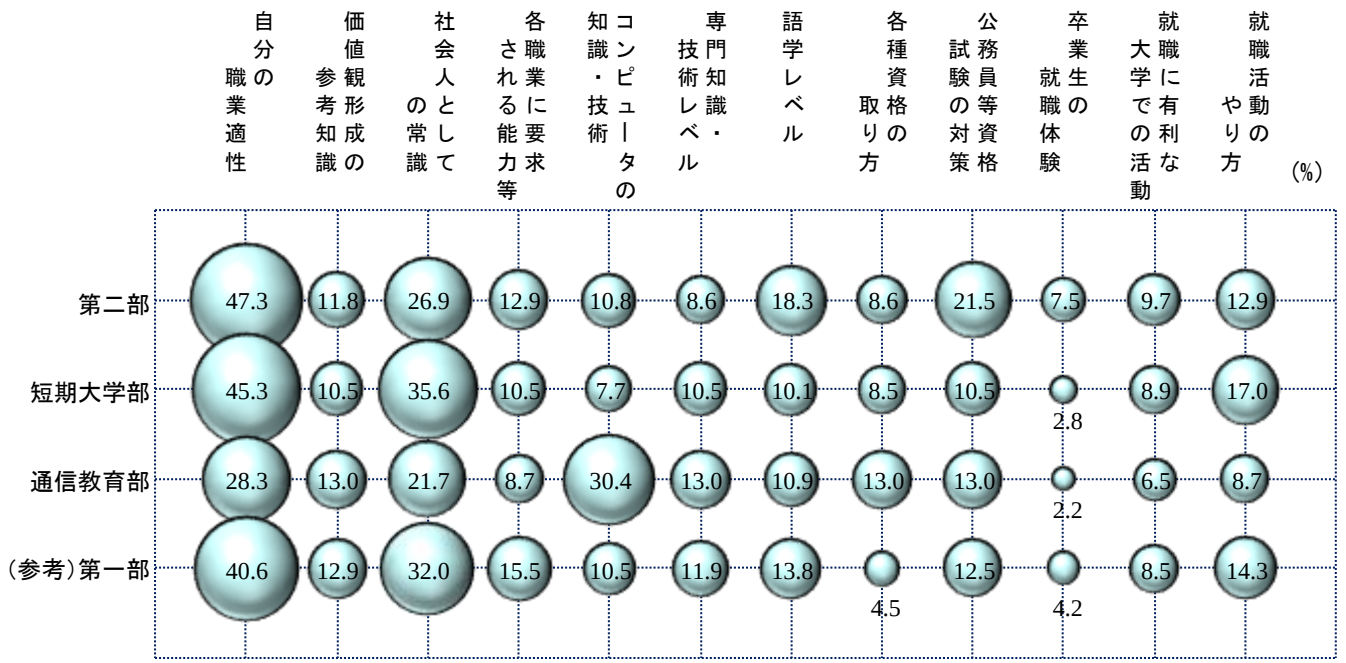



図10-16-2 進路に関する知りたい情報・知識（平成27年度）